

神大の移転計画「残念」

市長 経済損失に不安も

平塚

神奈川大学が
横浜・みなとみ

らい21(MM21)地区に新
キャンパスを開設する計画
で、同大が平塚市土屋にあ
る湘南ひらつかキャンパス
から一部学科を移転する考
えを明らかにしていること
について、市関係者から心
配の声が上がっている。落
合克宏市長は25日の会見で
「残念ではあるが大学の利
便性を図る『都心回帰』を
止めることはできない」と
一定の理解を示しながら、
同大に出向いて今後の移転
について確認する意向を表
明した。

同大の発表によると、新
キャンパスは2021年4
月に開設予定。湘南ひらつ
かキャンパスには経営学部
と理学部があるが、新キャン
パスには経営学部国際経
営学科を移す考えで、将来
的には全てを横浜キャンパ
ス(神奈川区)と新キャン
パスの2カ所に集約するこ

とも検討しているという。
市によると、湘南ひらつ
かキャンパスには約4千人
の学生が通い、そのうち約
3分の1が市内在住者。市

経済界の関係者は「家賃な
どで1人10万円かかるとし
て月に1億3千万円、1年
では約16億円の収入がなくな
り、アパートなど130
0室が空室になる」と指摘
する。地元経済が受ける影
響も大きいとして危機感を
募らせている。
市は16年度に同大と13事

業で連携し、里山再生や地
域・人材の交流なども進め
てきた。落合市長は「現段
階で大学全体の構想の具体
的な話はつかんでいない」
とした上で、「市の人口減
がようやく落ち着いてきた
のに残念。何とかいろいろ
な形で(湘南ひらつかキャン
パスを)使ってもらえる

地域づくりをしていかなければ」と強調した。

(浅川 将道)